CADL｜目的と実施条件

「どんな生活場面で、何を伝えられるようになりたいか」から整理する。

氏名／ID：_____ 日付：_____ 評価者：_____

01 本人の希望・今回確かめること

場面／相手／伝えたい内容／本人の言葉

02 実施条件と結果の転記

使用版・発行年：_____ 全検査／短縮版／その他：_____
実施範囲：_____ 素点／予測得点：_____ ／ 満点：_____
コミュニケーション・レベル：_____ 判定根拠となる手引書：_____
開始・終了：_____ 休憩：_____ 未実施項目と理由：_____

03 反応に影響しうる条件

視覚・聴覚／眼鏡・補聴器／麻痺・操作／疲労／用具へのなじみ／環境調整

比較の原則：版・実施範囲・換算方法・援助条件をそろえる。短縮版の予測得点と全検査の素点を、同じ数値として並べない。

CADL｜反応と援助を分ける

最終的に伝わったかだけでなく、最初の反応と援助後の変化を残す。

氏名／ID：_____ 日付：_____ 評価者：_____

01 標準条件での観察

課題・場面：_____
本人の最初の反応（発話・指さし・書字・身ぶりなど）：

規定の再刺激・手がかり（内容／時点）と、その後の反応：

02 検査後の支援試行 ※標準条件の得点とは別記

追加した支援：_____ 本人から使用／促した後に使用
何が伝わったか／誤解に気づいたか／修正を求めたか：

03 次回への仮説

成功に必要だった条件と、まだ確かめていない条件を分ける。

記録の視点：自発的な成功と援助後の成功を分ける。「指さし＝一律3点」などの独自判断はしない。正規得点は項目別規則で確定し、未実施の理由を残す。

独自の記録補助票。正式な検査用紙・教示・採点規則は使用する版の手引書に従う。

CADL｜生活場面と照合する

検査と家族の評価が違うときは、場面と支援条件の違いを確かめる。

氏名／ID：_____ 日付：_____ 評価者：_____

01 本人・家族が挙げた具体的な出来事

いつ／どこで／誰と／何を伝えようとして／何が起きたか

02 検査場面との違い

慣れた相手か／話題を共有していたか／道具は使い慣れているか
相手の先回り・代弁はあったか／本人が伝える機会は十分あったか

03 次に条件をそろえて確認すること

同じ内容を別の相手へ／同じ相手で別の内容を／支援をそろえて比較

読み取り：家族の評定を「誤り」と決めつけない。日常の経験と検査が捉える条件は異なる。本人の希望と、家族が続けられる支援の負担も一緒に確認する。

独自の記録補助票。正式な検査用紙・教示・採点規則は使用する版の手引書に従う。

CADL｜目標・支援・再評価

「点数が上がる」から、「必要な場面で本人が伝えられる」へ。

氏名／ID：_____ 日付：_____ 評価者：_____

01 生活目標と支援の約束

場面・相手・伝える内容：_____
本人が使う方法：_____ 相手の支援：_____
本人の反応を待つ方法／確認方法／代行が必要となる条件：

02 実施結果を同じ条件で残す

日付：_____ 成功した回数／伝える機会：_____ ／ _____
自発／声かけ後／選択肢提示後／代行（生活記録用。検査の採点区分ではない）
相手・場所・疲労・支援条件：_____

03 再評価と引き継ぎ

変わったこと／変わらなかったこと／別の場面への広がり／次の担当者への依頼

記載例（架空・検査後の生活練習）

注文時、本人からメニューを指して希望を伝達。異なる商品への首振りは自発、修正要求は確認後に出現。家族には代弁前に反応を待つ方法を共有。次回は別の職員に同条件で伝わるか確認する。

参考：千葉テストセンター CADL製品案内／綿森ほか（1987）／畑添ほか（2020）／福永ほか（2022）。詳細な文献・採点解説は記事本文参照。編集：2026.11

独自の記録補助票。正式な検査用紙・教示・採点規則は使用する版の手引書に従う。